平成28年度　沖縄県立総合教育センター　特別支援教育班　後期長期研修員　第３回検証授業

**｢社会科｣学習指導案**

日　 　時 ： 平成29年１月31日

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　6校時（14:15～15:05）

場　 　所 ： 高等部２年２組教室

対　 　象 ： Ⅱ類型-１、男子５名、女子３名

授 業 者 ： 久場 研幸

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　 　　　 　 　指導主事 ： 岡越 猛

**１　研究テーマ**

生徒同士が互いに学び合える授業の工夫

－アクティブ・ラーニング型授業による社会科の実践を通して－

**２　研究仮説**

（１）　授業展開において、アクティブ・ラーニング型授業を行うことで、他者と協力できる力（社会的能力）の育成につながるであろう

（２） 授業のフィードバックにおいて、他者との協働や環境との相互作用を振り返ることにより、対話的な学びが深まり、自らの考えが広がるであろう。

**３　研究テーマとの関わり**

文部科学省は「教育支援資料」（2013）において、知的障害の程度を単に「中度」、「軽度」などの程度では規定せずに、日常生活及び社会生活への適応能力の観点も含めて規定している。一方、知的障害特別支援学級の対象となる知的障害の程度が比較的軽度の生徒については、｢知的発達の遅滞があり，他人との意思疎通に軽度の困難があり日常生活を営むのに一部援助が必要で，社会生活への適応が困難である程度｣としている。さらに、国際生活機能分類（ＩＣＦ）（2001）による障害のとらえ方を踏まえ、「学習指導要領解説自立活動編」（2009）において、｢障害の状態は知的水準だけでなく，環境的・社会的条件で変わり得る可能性がある｣と、置かれた環境の重要性も示している。環境的・社会的条件の整備で障害の状態像が変化する可能性があることも、程度での明確な線引きをしていない理由だと考察できる。

また、軽度知的障害を有する生徒の数と割合について、国立特別支援教育総合研究所（以下、｢特総研｣とする。）の報告（2010）において、「全国の特別支援学校の高等部で特に増加している｣ことを指摘しており、軽度知的障害を有する生徒の増加の実態と教育的対応について特別支援教育の充実強化の必要性が提言された。沖縄県立島尻特別支援学校高等部（以下、「本校」とする。）においても同様に療育手帳区分で軽度認定の生徒が増加傾向にあり、今年度の全生徒に対する割合は３割弱となっている。

　特総研の「特別支援学校（知的障害）高等部における軽度知的障害のある生徒に対する教育課程に関する研究」（2012）では、軽度知的障害のある生徒に必要性の高い指導内容の整理と分析を行い、「対人コミュニケーション能力」、「社会生活のルール」、「基本的な生活習慣」、「職業能力の育成」の４つのキーワードを挙げている。社会生活や職業生活を送るために必要な能力と実践的な態度との関連において、各教科の学習内容を選択、抽出する必要性が指摘されている。また、「特別支援学校高等部学習指導要領」社会科の目標にも「社会の変化，働きや移り変わりについての関心と理解を一層深め，社会生活に必要な能力と態度を育てる。｣とあり、教科学習においても卒業後の社会的及び職業的自立を見据えたキャリア教育の視点からの授業組み立てや指導内容の充実が求められている。

「特別支援学校学習指導要領解説」では、知的障害のある児童生徒の学習上の特性として、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくいことや、成功経験が少なく主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないこと等からくる生活経験の不足も指摘されている。そのような特性を示す生徒達にとって、知識の定着と般化を目指す、効果的な授業の組み立てを考える必要があった。文部科学省の提唱するアクティブ・ラーニングの概念から考えると、主体的・能動的に学ぶ学習活動は、従来の知的障害教育の分野でも重視されてきたものである。しかし、子供たち一人一人が、学んだことにより、どのように成長しているか、より深い学びに向かう姿勢ができているか等を評価する視点が新しく加わる。従って、仲間同士の話し合い活動があっても楽しく会話しただけでは不十分で、対話し、それによって思考を広げ深めていくことが必要となる。

鈴木（2016）は、「アクティブ・ラーニングでは、ペアワークやグループワークを行うことで、お互いに自己存在感を高め合い、役に立っているというポジティブな感情を味わい、自己肯定感が高まる。」と指摘する。学習上に特有の特性を示す特別支援学校の生徒にとっても、協働学習による学びの効果は期待できると考える。そこで、アクティブ・ラーニング型授業で、個の学習から協働の学習、最後に個の学習で振り返りを行うというサイクルで対話的な話し合い活動における学び合いの促進を図りたい。生徒同士が協力・協働して課題解決に取り組む学習形態を作り出すことで、ソーシャルスキル、ライフスキルなど将来の生活を支える技術の習得が図られるであろう。更に授業のフィードバックにより他者との信頼関係や環境との相互作用を振り返ることで、自分自身の考えや学習、成長に気付けるのではないかと考え本テーマを設定した。

（１）生徒観

本授業の対象生徒は全体的に落ち着いた学習態度で授業に臨み、教師の指示も素直に聴くことができ、作業にもまじめに取り組むことができる生徒達である。しかし、中には、コミュニケーションや対人関係形成の課題に加え、集団への参加が苦手な生徒も見受けられる。彼らに共通するのは、発達や障害の特性から、注意や叱責を受ける等の失敗経験が多く、強い自己嫌悪感を持ち、自分自身を肯定的に捉えることや、自分に自信を持つことにつながる成功体験の希薄さが見受けられる。授業を通して自己決定の場や自己表現の場を経験させることにより、その経験が自信につながるよう支援していきたい。自由に発言する生徒もいれば、黙り込んでなかなか意見を言えない生徒もいる。３～４名の少人数でのグループをつくり、話しやすい雰囲気作りや話す内容を整理しやすいプリントの準備を行い、人前で話すことが苦手な生徒達からも個人の意見が引き出せるようにしていきたい。

（２）題材観

本題材では、「学習指導要領」総則に規定する、内容構成の考え方から、｢社会的事象｣の観点の１段階（４）｢政治，経済，文化などの社会的事象や情報メディアなどに興味や関心を持ち，生産，消費などの経済活動に関する事柄を理解する。｣についての内容である。消費、流通、生産についての基本的な社会的事象を取り上げ、経済活動の意味や意義を身近な生活と結びつけて学習していく。「指導要領解説」によると、「生産、消費などの経済活動」とは、生産、販売、消費に関する一連の経済活動を指し、商品の原材料を生産する漁業や農業、原材料や商品の運送、原材料の加工、商品の販売を取り上げることにより、生産、流通、販売、消費などの経済活動の基本的な知識を身に付け、それらと自分の生活とのかかわりについて考える手掛かりとしていくことが必要である。

（３）指導観

本授業の対象生徒８名のうち、長欠１名を除く７名の生徒は、本年度、抽出による就業体験や職場実習を経験し、就職に向けた意欲や関心が高まりつつあると考えられる。各教科の学習を通して、自己の理解を深め、職業の実像をつかみながら、望ましい勤労観、職業観を身に付けていく必要がある。本時では、身近な事例に基づく学習活動やシミュレーションなどの様々な学習活動を通して、経済に対する関心を高めさせ、暮らしと経済の関係に気付かせるようにする。様々な品物が生産者から消費者へ流通するしくみについて概観し、消費者の手に渡るまでにたくさんの職種、たくさんの人々が関わっていることについて学び合うことを目指したい。本時で学んだ内容について、スーパーでの買い物時や品物を選択する際に生産地の確認、輸送の工夫、値段の付け方の工夫等を考察することで毎日の生活を支える食品の流通を身近に感じて欲しい。また、様々な職種を知ることで、職業選択の幅も広げることができるであろう。

４　単元名

｢私たちのくらしと経済｣

５　単元の目標

私たちの生活と経済との関わりについて学習する。品物の生産、流通、交換、消費などの活動のすべてを合わせて経済というが、経済が順調に発展していくためには、それを支える社会のしくみが必要である。しかし、経済の規模が地球環境へ与える影響も考慮しながら、一人一人が消費生活をしていく上で様々な注意が必要となる。毎日の生活を支える食品の流通及び、電化製品、衣料品、文房具などの工業製品の流通を中心に流通のしくみから、消費者の意識や課題について考察することができる。

６　指導計画　（総授業時数５時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 主な学習内容 | ねらい | 主な評価の観点 |
| １ | 生産から消費への流れ～流通のしくみ～① 食品の流通 | 生産物が多くても、流通のしくみが未整備だと、商品が消費者の手元に届かないなど、毎日の生活を支える食品流通の重要性を考察する。コンビニエンスストアの陳列の工夫など小売業者の視点で消費者の消費行動を考えることができる。 | 【思考・判断・表現】流通に関する事例を基に、流通の役割について多面的に考え、その過程や結果を適切に表現できる。 |
| ２　（本時） | 生産から消費への流れ～流通のしくみ～② 工業製品の流通 | 物流センターが担う、品物を集め保管する倉庫としての働きと、配送センターとしての働きを理解する。同じ商品であっても、生産工程や流通の違い、製品の質の違いなどによって値段が違ってくることにも気付くことができる。流通のキーワードを自分の生活と関連させ再確認する。 | 【思考・判断・表現】流通のしくみや流通の合理化のための取り組みについて、グループでの意見をまとめ、発表できる。 |
| ３ | いろいろな仕事 | 社会には、いろいろな仕事や会社が存在しており、人々が必要としているものを作り出して提供している産業について、3種類の分類分けから概観する。 | 【資料活用の技能】産業の分類分けなど、事例や資料からの読み取りを行い、自身の生活と経済との関連について気付く。 |
| ４ | 経済活動を支える社会のしくみ | 社会資本整備や環境問題が私たちの生活と密接に関係していることを考察する。急激な経済成長による自然破壊が人々の健康に悪い影響を与えないよう、省エネルギーやリサイクルについて理解する。 | 【関心・意欲・態度】自身の消費活動を振り返って、自立した消費者を目指そうとしている。 |
| ５ | 私たちの消費生活 | 契約社会の代表的なものとしてクレジットカードのしくみを理解する。消費者金融や悪質商法の例などを提示し、契約トラブルを引き起こさないよう注意喚起する。併せて、消費者保護制度の存在についても学習する。 | 【知識・理解】消費者の権利と契約、消費者問題について理解しその知識を身に付けている。 |

７　本時の指導

　（１）本時の目標

①流通の基本的なしくみや、関連する語句の意味を理解する。

②自由な発想で意見を述べることができる。

　（２）本時の展開

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 学習内容 | 生徒の活動 | 指導上の留意点 | 準備物 | 評価 |
| 導入（　５分　） | はじめの挨拶｢ETゲーム｣（ｱｲｽﾌﾞﾚｲｸ）個人目標設定 | 号令教師の指示に従い、隣同士指先を合わせる（協働）。教師の指示で、席を立ち数人と指先を合わせる（協働）。ﾜｰｸｼｰﾄで、個人目標を選択する（個）。 | 生徒の健康状況の確認教師の指示に従い、一斉に行動できるよう言葉掛けを行う。隣同士、目標を宣言 | ﾜｰｸｼｰﾄ |  |
| 展開①　（　15分　） | 食品流通の仕組み（前時の振り返り）卸売市場の仕組み流通の役目目標の再確認 | 流通はどのような仕組みだった？生産者 → 卸売り市場 → 小売業者→ 消費者ﾜｰｸｼｰﾄに記入（個）学習発表会でのみんなの立場を考えてみよう！あなたは生産者？　お父さん、お母さんは消費者？流通の役目とは何でしょうか？生産者→消費者　への流れを作る今日の個人目標を再確認する | 語句の意味、確認をしながら説明する生産者にも消費者にもなりうる何のために流通が整備されているのか考察する目標を再確認し意識させる | ﾜｰｸｼｰﾄﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄテキスト（p52）販売学習の写真掲示物 | 知識・理解技能（資料活用）関心・意欲・態度 |
| 展開②（　20分　） | 消費者の手に届くまで輸送方法の違い生産量の違い原材料、賃金の違い卸売市場を通さない商品もあるグループ意見のまとめ発表 | なぜ、同じ物が違う値段で売られているのだろうか？（比べる商品をグループで選ぶ）グループで意見を出し合い問題を解くその①《工業製品》値段に違いが出るのは、はなぜでしょうか？（外国で大量に生産すると単価が安くなる）（安い物は質が落ちる）その②《農作物》値段に違いが出るのは、なぜでしょうか？（産地直送、有機栽培、無農薬、大規模農場、機械化）グループで買うなら、どの商品がより望ましいですか？その理由をまとめてください。・グループの意見をまとめる・代表者を選定し、発表する | 日本製と外国製産地の違い質の違い考え方のヒントを少しずつ提示するグループの意見をまとめる時に、進行役を置く自分たちなりの意見をまとめることができるように、言葉掛けする | ﾜｰｸｼｰﾄﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄファイルペンニンニクキュウリタマネギホワイトボードペン | 関心・意欲・態度思考・判断・表現思考・判断・表現関心・意欲・態度 |
| まとめ（　　10分　） | まとめテスト採点リフレクションシートへの記入授業の感想、発表 | 流通の役目を答えなさい？（個）まとめテストを採点しあう。（協働）リフレクションシートへ今日の授業の感想を記入する。数名を指名して感想、意見の発表を行う。 | まとめﾃストを友達同士交換する全員100点となる。箇条書きや、何を書いてもいいことを確認する。 | まとめプリントﾘﾌﾚｸｼｮﾝｼｰﾄ | 関心・意欲・態度 |

８　仮説の検証

　（１）仮説の観点と方法

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 検証の観点 | 検証の方法 |
| １ | どの生徒も、話し合い活動に積極的に参加することができていたか | グループ活動の様子 |
| ２ | 話し合い活動の中で他者と協力できる力を育成することができたか | 話し合い活動や発表から検証 |
| ３ | 自らの考えを広げ深める学習過程を実感することができたか | ﾘﾌﾚｸｼｮﾝｼｰﾄから考察 |

９　授業者の評価

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 評価項目　　　　　　【◎適切、〇やや適切、△改善が必要】 | 評価 | 備考 |
| ① | 本時の目標設定は適切であったか |  |  |
| ② | 適切な言葉かけや支援はできたか |  |  |
| ③ | 場面設定及び授業の流れは適切であったか |  |  |
| ④ | グループ活動の際の生徒への支援は適切であったか（タイミング、働きかけ等） |  |  |
| ⑤ | まとめテストは適切であったか（学習内容の要約になっているか） |  |  |

平成２９年１月31日（火）

（氏名：　　　　　　　　　　　　）

**社会科ワークシート①**

**の**

《 の 》

　　　　①よくく　②える　③する　④する　⑤ペアやグループでする

《 の 》

　　　　「の」について考えをめ、のを。

　　　　　　①「流通」について考え、を自分なりに説明できるようにする。

　　　　　　②「流通」のしくみについてし、える。

**問題１　　のしくみを答えなさい（テキスト53ページ）**

**〔　　　　　う　　　る　　　る　　〕**

**（　　　　　　）　　　（　　　　　　）　　　　 　（　　　　　　）　　　　（　　　　　　）**

**生産者　　　　　　 　　卸売業　　　　　　　 　　　小売業　　　　　　 　　　消費者**

農業・漁業など

卸売業者

専門店

デパート

スーパー

コンビニ

など

私たち

**直接仕入れ**

**直接販売**

**問題２　　のやくめは何ですか？**

**（　　　　　　　　　　）がったものを、私たちが（　　　　　　　　）で**

**（　　　　　　　　　）ようにすることがのやくめです。**

**のにくまでの**

**問題３　なぜ、じがうでられているのだろうか？グループでい、**

**をまとめてください。**

　　　　　　　**【　　】**

　　**【　　】**

**問題４　グループでうなら、どのがましいですか？**

平成２９年１月31日（火）

（氏名：　　　　　　　　　　　　）

**社会科まとめテスト**得　　点

**問題１　　流通のやくめを答えなさい**

**（　　　　　　　　　　）がったものを、私たちが（　　　　　　　　）で**

**（　　　　　　　　　）ようにすることがのやくめです。**

　　**リフレクションシート**（授業の振り返りを行うシートです）

氏名

　　　　以下の３つの項目に答えてください。

（　　月　　日　）　１　グループやとなり同士で協力することはできましたか？

　　　　　　　　　　２　今日の授業でわかったことはありましたか？

　　　　　　　　　　３　感想や意見、質問はありませんか？

（　　月　　日　）

　１

　　　　　　　　２

　　　　　　　　３

（　　月　　日　）

　　　　　　　　１

　　　　　　　　２

　　　　　　　　３

（　　月　　日　）

　　　　　　　　１

　　　　　　　　２

　　　　　　　　３

（　　月　　日　）

　　　　　　　　１

　　　　　　　　２

　　　　　　　　３